

ご挨拶

九州歯科大学 理事長・学長 西原達次

皆さんこんにちは、西原でございます。本日は、どうぞよろしくお願いたします。

ただいまお二人のご挨拶を伺って、私から申し上げる事は、今回この研究事業が荒木先生のもとで運営されているなかで、幹事校として本学は参加させていただいているということでもあります。そして、今日もご案内がありますように、トライアルというかたちで受審をして、その結果を今日ここで、皆さま方の今日のたたき台にさせていただくということになっております。

私ども九州歯科大学は、29 歯学部がある大学の中で、唯一公立大学でございます。そのようなこともあり、国立大学、私立大学と違いまして、法人化したのちは、本学は、地独法の下での法人として、毎年福岡県が設置する評価委員会で年度評価を受けております。そこでは、数値目標を掲げたいうえで毎年評価を受け、その評価に従って交付金額が決まるという特有の仕組みのもとで、私は理事長・学長として、今運営しているところでございます。

その様な中で、今回このようなワーキンググループが立ち上がり、幹事校として参加しているということで、理事長・学長としてこの認証評価トライアル受審をどのような体制で対応したら良いかを考え、本学は単学部大学ということから、学部教授会というかたちで学部長が束ねて教育を充実・改善して行くという視点で臨むこととしました。さらに、文部科学省も大学のガバナンス、あるいは学校法の一部改正を含めて、大学の学部の在り方について問いかけているのが昨今でございます。そこで私は今回、このトライアルを少し受け身ではなく、前向きに考えて、学部がどのような行動をするかということ、いわゆる PDCA サイクルに則って、今後の学部活動の改善に生かせるかどうかを確認するという形で、学長としてはお付き合いさせていただくというスタンスで臨むことにしました。

したがいまして、今日の報告も細川歯学部長からする形にはなりますけれども、これを今日ご出席の関係者の方々が、それぞれお持ち帰りいただいて、それぞれの組織のために活用していただければと思っています。

今日、これからいろいろな意見が出され、今回の試みが歯学部の教育の改善に繋がるものと強く信じております。先生方の活発なご意見のやり取りを期待して、私のご挨拶とさせていただきます。